

相模原市総合写真祭 フォトシティさがみはら2007

報道資料 (2007年8月13日発表)

1. 「さがみはら写真賞」ほか受賞者決定！！

写真展開催などのお知らせ

さがみはら写真賞
<small>わたなべひろし</small> 渡邊博史「私は毎日、天使を見ている。」
さがみはら写真アジア賞
スティーヴン・リー STEVEN V-L LEE (マレーシア) 「アウトサイド・ルッキング・イン・クアラルンプール」
さがみはら写真新人奨励賞 (2名)
<small>あおきひろし</small> 青木弘「BORN UNDER FIRE -戦火の子どもたち」
<small>なかつそういちろう</small> 中田聡一郎「星のしゃぼん -砂守が育んだ故郷」
さがみはらアマチュア写真グランプリ金賞
<small>あきのてるこ</small> 浅野照子「散歩コース」

2. フォトシティさがみはら 2007 の企画概要

フォト・シンポジウムほか企画内容などのお知らせ

お問い合わせ
相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会
〒229-8611 神奈川県相模原市中央 2-11-15
相模原市役所文化国際課内
電話：042-769-8202 FAX：042-754-7990
E-mail:bunka-2@city.sagamihara.kanagawa.jp
http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/simin/bunka/photocity/photo.html

記録！表現！記憶！

相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら2007 開催のお知らせ

【開催の趣旨】

写真は、その卓越した記録性により報道、ドキュメント等歴史の貴重な証人となり、また豊かな表現機能により、芸術、現代美術の表現手法として数多くの作品を生み出し、さらに、誰にでも使える利便性により、記念写真から家族写真まで、多くの人に愛され感動を与えるものになりました。

相模原市では、豊かな精神文化が求められる新しい世紀に当たり、この広い地盤を持つ写真文化にスポットをあてた「総合写真祭フォトシティさがみはら」を2001年から毎年開催しています。

この写真祭は、新たな時代を担うプロ写真家の顕彰と、アマチュア写真愛好家に作品の発表の場を設けるとともに、写真展を中心に様々なイベントを組み込んだ市民参加型の文化事業として位置付けています。また、第2回目の写真祭においては海外にも目を向け、特に日本と様々な分野で密接な関係にあるアジア諸国を対象とした「さがみはら写真アジア賞」を創設しました。

相模原市では、この写真祭を「新たなさがみはら文化」として内外に発信しており、こうした中、写真の持つ「記録、表現、記憶」といった特性を多くの人が身近に感じることができる市民主体の事業として、第7回目となる「総合写真祭フォトシティさがみはら」を開催します。

【事業の基本コンセプト】

- ・日本及びアジア諸国で作家活動をしているプロの写真家と全国のアマチュア写真愛好家を対象とした写真展を開催します。
- ・市民が主体的に参加できるイベントを実施し、写真を通じた交流の輪を広げます。
- ・「新たなさがみはら文化」として内外に発信していきます。

【主催者等】

【主催】 相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会

【共催】 相模原市、相模原市教育委員会、(財)相模原市民文化財団

【後援】 (予定)

外務省、文化庁、マレーシア大使館、トロント市、トレイル市、無錫市人民政府、神奈川県、(社)日本写真協会、(社)日本写真家協会、日本写真芸術学会、日本写真作家協会、NHK横浜放送局、エフエムさがみ、朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、相模経済新聞社、東京新聞、毎日新聞社、読売新聞社横浜支局、全日本写真連盟、日本報道写真連盟、読売写真クラブ、相模原商工会議所、相模原市農業協同組合など

【協賛】 (予定)

(株)伊勢丹相模原店、相模中央写真師会、相模原市印刷協同組合、(株)ニコン、ニコンカメラ販売(株)、富士写真フイルム(株)、富士フイルムイメージング(株)、(株)八千代銀行など

【協力】 (予定)

小田急電鉄(株)、神奈川中央交通(株)、京王電鉄(株)など

[入 場 無 料]

開 催 事 業

【プロの部／アマの部受賞作写真展】

開 催 日 平成19年10月12日（金）～29日（月）（水曜日休館）
10：00～19：00

会 場 相模原市民ギャラリー（JR 横浜線相模原駅ビル）

展示内容 ※受賞者は別添のとおり。

プロの部 90作品

写真関係者から推薦された候補者の中から、写真制作、発表活動の業績に対して特に優秀であるとして選ばれたプロ写真家の作品を展示します。

「さがみはら写真賞」 1名 30作品

「さがみはら写真アジア賞」 1名 20作品

「さがみはら写真新人奨励賞」 2名 各20作品

アマチュアの部 57作品

全国のアマチュア写真家から寄せられた作品の中から選ばれた優秀作品を展示します。

金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、市民奨励賞1名、入選50名

【表彰式】

開催日 平成19年10月13日（土） 11：00～

会 場 社のホールはしもと多目的室（JR 横浜線橋本駅北口ミウヰ橋本8F）

プロの部 《さがみはら写真賞》 1名：賞状、ブロンズ像、副賞50万円

プロの部 《さがみはら写真アジア賞》 1名：賞状、ブロンズ像、副賞20万円

プロの部 《さがみはら写真新人奨励賞》 2名：賞状、ブロンズ像、副賞20万円

アマチュアの部 ーさがみはらアマチュア写真グランプリー 57名

《金賞》 1名：賞状、楯、副賞20万円

《銀賞》 2名：賞状、楯、副賞10万円

《銅賞》 3名：賞状、楯、副賞5万円

《市民奨励賞》 1名：賞状、楯、副賞5万円

《入選》 50名：賞状、楯、副賞商品券（5千円相当）

【フォト・シンポジウム】『全国の「写真のまち」大集合 ―写真で文化をきりひらく―』

開催日 平成19年10月13日（土）

14:00～17:30（予定）

会場 社のホールはしもと多目的室（JR 横浜線橋本駅北口ミウヰ橋本8F）

内容 第21回国民文化祭やまぐち2006において実施された「写真のまちフォーラム」を引き継ぐ形で実施。写真文化を通じたまちづくりを行っている各事業関係者・自治体担当者等を招いたパネル・ディスカッションを実施し、各自治体が行っている写真祭、顕彰事業等の経緯と現状を踏まえ、文化の育成について考えるシンポジウム。

第1部 基調講演

講師 周南市美術博物館 館長 森川紘一郎氏

第2部 パネル・ディスカッション

出席者

○コーディネーター 写真家・九州産業大学大学院教授 江成常夫氏

（相模原市「フォトシティさがみはら」特別実行委員）

○基調講演 講師 周南市美術博物館 館長 森川紘一郎氏

○パネリスト（参加自治体）

【北海道 東川町】【山形県 酒田市】【山口県 周南市】【宮崎県 宮崎市】

【神奈川県 相模原市】

【フォト・ワークショップ】

開催日 平成19年10月13日（土）・14日（日）・21日（日）

13:00～18:00（13日（土）は18:30～20:30）

会場 社のホールはしもと多目的室（JR 横浜線橋本駅北口ミウヰ橋本8F）

内容 新たな写真の可能性を追求する試みの一つとして開催するワークショップです。日本を代表する写真専門家を講師に迎え、プロ志向の若者を中心とした参加者が、レクチャー・プラクティス等を通してデジタル技術を駆使した新しい写真表現の創造を目指します。

【写真講評会】

開催日 平成19年10月21日（日）

13:00～15:00

会場 相模原市民ギャラリー（JR 横浜線相模原駅駅ビル）

内容 写真展アマチュアの部の審査員により、受賞作品のポイントを解説していただきます。貴重な体験をできる写真愛好家必見の催しです。

【ニコン ポートフォリオレビュー in 相模原】

開催日 平成19年10月26日（金）

14:00～

会場 社のホールはしもとセミナールーム2（JR 横浜線橋本駅北口ミウヰ橋本8F）

参加対象者 35歳までの将来写真家を目指す若い世代（当日先着順、参加費無料、見学可）

内容 ニコンサロン運営委員会の先生方が、参加者の写真作品を多角的に方法論、技術論、等々にわたって話し合う、ニコン ポートフォリオレビューの特別出張版です。

【アマチュアの部巡回展】

開催日 写真展終了後随時（12月～）

会場 市内アートギャラリー、金融機関、商店街等

内容 写真展アマチュアの部入賞入選作品の巡回展を市内金融機関や商店会などで行ないます。

【私のこの1枚】

開催日 平成20年1月中旬、2月上旬

会場 伊勢丹相模原店本館2階ギャラリースクエア・本館特設会場（小田急線相模大野駅北口）
シティプラザはしもと多目的スペース（JR横浜線橋本駅北口）

内容 自分の気に入った写真を展示ボードに貼り付ければ誰でも参加できる写真展です。会場では、皆さんから寄せられたとっておきの1枚を集めた写真を展示します。写真を撮る楽しさ、見せる喜び、観る面白さを実感していただける催しです。

【プロの部巡回展】

開催日 平成20年2月上旬

10:00～19:00（最終日は16:00まで）

会場 新宿ニコンサロン／bis

内容 写真展プロの部受賞作品の巡回展を行ないます。

【お問い合わせ】

〒229-8611 神奈川県相模原市中央 2-11-15

相模原市役所文化国際課内 フォトシティさがみはら実行委員会事務局

電話：042-769-8202

FAX：042-754-7990

E-mail:bunka-2@city.sagamihara.kanagawa.jp

記録！表現！記憶！

プロとアマチュアの写真家が集う

相模原市総合写真祭「フォトシティさがみはら2007」を開催

相模原市では、豊かな精神文化が求められる新しい世紀の幕開けである2001年から、新たな「さがみはら文化」を全国、世界に発信することを目標に、写真展を中心に様々なイベントを組み込んだ総合写真祭「フォトシティさがみはら」を毎年開催しています。この写真祭は、新たな時代を担う気鋭のプロ写真家の顕彰と、写真に親しむアマチュアに作品の発表の場を設けるとともに、市民が優れた芸術文化に触れたり、それぞれの場に参加できるなど、写真の魅力を総合的に楽しめる祭典です。

今回、第7回目を迎える写真祭の中心となる写真展の各部門の受賞者が決定しました。

国内プロの中堅写真家を対象とする「さがみはら写真賞」には、ノミネートされた24名の中から渡邊博史氏（対象作品『私は毎日、天使を見ている。』）が選ばれました。また、新人写真家を対象とする「さがみはら写真新人奨励賞」には、ノミネートされた31名の中から青木弘氏（対象作品『BORN UNDER FIRE -戦火の子どもたち』）、中田聡一郎氏（対象作品『星のしゃぼん -砂守が育んだ故郷』）の2名が選ばれました。

アジア地域で活躍している写真家を対象にした「さがみはら写真アジア賞」には、マレーシアに生まれ、現在は英国ロンドンを拠点に世界で活躍している STEVEN V-L LEE 氏（対象作品『アウトサイド・ルッキング・イン・クアラルンプール』）が選ばれました。

全国公募によるアマチュアの部「さがみはらアマチュア写真グランプリ」には、応募作品3,558点の中から、金賞に神奈川県の浅野照子さんの『散歩コース』が選ばれました。

写真展は10月12日（金）から10月29日（月）まで相模原市民ギャラリーで開催され、プロ・アマチュアの受賞作品約140点が展示されます。

プロの部受賞者

さがみはら写真賞 わたなべひろし 渡邊博史（東京都江東区）

さがみはら写真アジア賞 スティーヴン・リー STEVEN V-L LEE（マレーシア）

さがみはら写真新人奨励賞 あおきひろし 青木弘（神奈川県横浜市）／ なかたそういちろう 中田聡一郎（東京都東村山市）

アマチュアの部受賞者

金賞 あさのてるこ 浅野照子（神奈川県茅ヶ崎市）

銀賞 ふちがみたかよし 渚上孝義（相模原市）／ やまもと 山本カドシゲ（大阪府柏原市）

銅賞 たうちじろう 田内次郎（神奈川県横浜市）／ ちはらかずし 千原一司（兵庫県明石市）／ はらだけんじ 原田健児（神奈川県横浜市）

市民奨励賞 かないかつとし 金井勝利（相模原市）

入選 50名

表彰式

10月13日（土）午前11時から 社のホールはしもと多目的室

フォトシティさがみはら2007では、写真展開催期間中にフォト・シンポジウム、フォト・ワークショップ、写真講習会などを開催するほか、来年1月には、誰もが気軽に参加できる「私のこの1枚」写真展を、2月には、プロの受賞作品の巡回展を新宿ニコンサロンで開催します。この他にも写真教室やアマの受賞作品の巡回展などを開催しますので、ぜひこの機会に、写真の持つ記録性、芸術性などのすばらしさを体感していただきたいと思っております。

【問い合わせ】 相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会事務局
〒229-8611 神奈川県相模原市中央2-11-15 相模原市役所文化国際課内
担当：山本、向笠、齋藤
電話：042-769-8202 FAX：042-754-7990
E-mail:bunka-2@city.sagamihara.kanagawa.jp

◇審査結果・受賞者紹介

【プロの部】

審査員：伊藤俊治、江成常夫、大石芳野、坂田栄一郎

さがみはら写真賞：ノミネート作家24名

さがみはら写真アジア賞：ノミネート作家4名

さがみはら写真新人奨励賞：ノミネート作家31名

●さがみはら写真賞

渡邊 博史（56歳） 東京都江東区

作品名「私は毎日、天使を見ている。」

1951年北海道札幌出身。1975年日本大学芸術学部写真学科を卒業後、アメリカ、ロサンゼルスに移住。サニーサイドアップ社を設立しコマーシャルの制作に業務する。1993年UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）でMBA号を修得。1995年頃から自分の作品としての写真を撮り始める。2000年、写真に本格的に取り組むためにプロダクション会社を廃業し、ファインアート写真家として活動を始める。以来主にアメリカで多数の個展を行う。フィラデルフィア美術館、ヒューストン美術館、ジョージ・イーストマン・ハウス、サンタ・バーバラ美術館などの美術館に作品がコレクションされる。

2006年 フォトルーシダからクリティカル・マス賞を受ける。

【写真集】

「私は毎日、天使を見ている」 | See Angels Every Day” 窓社刊、“Findings” フォトルーシダ（アメリカ）刊

●さがみはら写真アジア賞

スティーヴン・リー STEVEN V-L LEE（47歳） マレーシア

作品名「アウトサイド・ルッキング・イン・クアラルンプール」

1964年、マレーシア・クアラルンプール生まれ。

肖像や旅の撮影を中心に活動。フランス・パリ、トルコ、ベトナムやシンガポールで撮影した写真と旅行記を、企業の社内誌に掲載する仕事をきっかけに写真家への道を進む。現在は肖像やイベント写真（ファッションや編集用）を専門とする。英国・ロンドン在住。

2000年、写真集「Outside Looking in Kuala Lumpur」を発表。躍動的に発展を遂げるクアラルンプールの躍動感とともに、市内の中華街や街なかで繰り広げられる、住民の日常生活を克明に綴ったA4版モノクロ写真集。Sympress社出版、Ee Sim Teo Machado共著。

2002年、国際反奴隷協会がチャリティー基金のためのレシピブック出版にあたり、掲載する写真の依頼を受ける。

2007年、英国・バーミンガムでの「ルバーブルバープ国際イメージ祭」においてポートフォリオ評議員として選出される。また、Alamy社（投稿イメージデータの貯蔵・公開を行う会社）のデータベースサイトの寄稿者である。

●さがみはら写真新人奨励賞

青木 弘（31歳） 神奈川県横浜市 作品名「BORN UNDER FIRE -戦火の子どもたち」

1976年生まれ。写真家 武政義夫氏に師事。

ロンドン留学を経て、2002年よりフリーランスとして活動を始める。

イラク、パレスチナ、アフリカ等、各地の紛争地で撮影を続けている。

【個展】

フォトプレミオ「BORN UNDER FIRE -戦火の子どもたち」コニカミノルタプラザ（2007年）

中田 聡一郎（42歳） 東京都東村山市 作品名「星のしゃぼーん砂守が育んだ故郷」

1965年岐阜県吉城郡神岡町（現飛騨市）にて生まれる。工学院大学建築学科卒業、日本写真芸術専門学校中退。フォトジャーナリスト樋口健二氏に師事。中野区役所建築課主事を経てチクタクプロダクション設立。

【写真集】

「奥飛騨の鉱山」（海拓舎）2001年、「飛騨の砂守」（河出書房新社）2004年、「星のしゃぼーん砂守の育んだ故郷」（河出書房新社）2007年

【展覧会等】

ドイツフォトギャラリー（1992年）、銀座ニコソサロン（1994年）、JPGCギャラリー（名古屋）（1994年）、

神岡町中央公民館（2001年・2002年・2004年）、ミノルタフォトスペース（新宿・梅田）（2001年）、

オリンパスギャラリー（2002年・2004年・2007年）、神田AYUMIギャラリー（2002年・2003年）、

イラン・イスラム共和国（農業開発推進省 テヘラン本部 ゴレスタン州事務所）（2005年）、

つくば美術館（写真1995展 写真2003展）、東京都美術館（東京展 優秀賞受賞）（2002年）、

奈良市写真美術館（プリントワークの美展）（2003年）、ヨーロッパ写真美術館収蔵（奥飛騨の鉱山 飛騨の砂守）（2001年・2004年）、映像コミュニティー施設船津座収蔵（飛騨市）（2005年）

●審査員コメント

さがみはら写真賞の渡邊博史『私は毎日、天使を見ている。』は、エクアドルのサン・ラザロ精神病院の人々の肖像を中心にした写真集だ。建物の一部が教会で、医師と看護師以外に、修道女が患者の世話をする。科学としての医学ではなく、人の心を救うための実践がそこではおこなわれていた。「私は毎日、天使を見ている」という患者のつぶやき、さまざまな患者たちの無言の物語がその写真からこぼれだす。天使は幻覚だが、その無言の物語は真実であることが実感される。見る者自身が厳しく試される希有な写真である。

アジア賞はスティーヴン・リー『アウトサイド・ルッキング・イン・クアラ Lumpur』となった。リーはクアラ Lumpur に生まれ、イギリスに留学したのち、生地に戻り、その激変ぶりに驚き、写真を撮る。異邦人と故郷喪失者の眼が混じりあった独自の視点で、アジアの大都市の表と裏を浮き彫りにする。

新人奨励賞の中田聡一郎『星のしゃぼん／砂守が育んだ故郷』は、日本で百年たつ砂防事業を扱った写真集だ。砂守たちが自然と対峙しながら持続させてきた過酷な営みをスケールの大きな循環に放ち、心の風景として描きだす。同じく青木弘『BORN UNDER FIRE／戦火の子供たち』は、パレスチナやウガンダといった戦場で苦しみ必死に生き延びようとする子供たちをとらえたものだ。世界各地の紛争地で、現実の苛烈さと自分の無力さを止揚させてシャッターを切る。その眼差しには瞬間の真実がこもっている。

審査員 東京芸術大学教授／美術史家 伊藤俊治

【アマチュアの部】

審査員：梶原高男、齋藤康一			
応募作品：3, 558点（昨年3,206点）、応募者数：829名（昨年795人）			
●さがみはらアマチュア写真グランプリ			
金	賞：浅野 照子（55歳）	神奈川県	作品名「散歩コース」
銀	賞：淵上 孝義（61歳）	相模原市	作品名「氷上の情景」
	山本カドシゲ（60歳）	大阪府	作品名「出番待ち」
銅	賞：田内 次郎（68歳）	神奈川県	作品名「ランニングアウト」
	千原 一司（60歳）	神奈川県	作品名「インプレッション」
	原田 健兒（82歳）	神奈川県	作品名「花化粧」
	市民奨励賞：金井 勝利（63歳）	相模原市	作品名「ダイヤモンドの輝き」
入選：50名			
●審査員コメント			
<p>栄えある金賞は浅野照子さん（神奈川県）の「散歩コース」に決定しました。この作品は横浜港の赤レンガパークで撮影されたスナップ作品で、自転車に乗った母と子、そして前景におそらく父親と思われる人物の乗った自転車の前部のカゴに乗った小型犬、さらに背景に豪華客船を配した画面構成がすばらしい作品です。母と子の表情や動きもとてもよく、まさに休日のファミリーの決定的瞬間をとらえたもので、わずかに画面がかたむいているのも動感を強調しています。銀賞は2点ありますが、まず淵上孝義さん（神奈川県）の「氷上の情景」は北海道の屈斜路湖で撮影された白鳥の群で、横に並んで立つ氷上の白鳥とその前の水面に映る影が、たいへん造形的に面白くとらえられた作品です。横長のパノラマ的な画面がとても効果的で、やわらかい感じの色調もとても印象的です。もうひとつの銀賞は山本カドシゲさん（大阪府）の「出番待ち」ですが、おそらく神戸のカーニバルで撮影された、とても現代的な光景をスナップした作品です。画面左側の女性と、大人と同じカーニバルの衣装を着た少女、そしてその右には道端に座り込んでテレビゲームをする男の子と、登場人物がとても面白く、画面構成も完璧です。しかもカーニバルの衣装の青と男の子の背景のウインドウの赤がすばらしいカラー効果となり印象的な画面となっています。銅賞は3点ありますがまず田内次郎さん（神奈川県）の「ランニングアウト」で横浜港大棧橋を上から俯瞰で撮影し、画面中央を走るシルエットの人物とその長い影がポイントになっている作品です。斜め右からの逆光線が効果的で、棧橋の木の床面の線と人物の影の形がバランスよくとらえられた画面はとても造形的で、シャッターチャンスも満点です。もうひとつの銅賞の千原一司さん（兵庫県）の「インプレッション」はキューバで撮影された強烈な光と色彩の作品です。前景のシルエットはおそらく輪タクと思いますが、背景のグリーンの壁と青黒い空、そしてその前を歩く人物とのバランスが絶妙で、異国情緒あふれる印象的な作品となっています。3点目の銅賞は原田健兒さん（神奈川県）の3枚組写真「花化粧」です。室内でライティングして撮影されたものですが、背景からの透過光で白バックにして花をクローズアップしたのが効果的で、3種の花の色彩のとり合わせもとても洗練されている、しゃれた作品です。市民奨励賞は金井勝利さん（神奈川県）の「ダイヤモンドの輝き」で、富士山の山頂からの日の出をとらえたいわば定番ものなのですが、太陽を中心に虹色のリングが写っているのが面白く効果的です。太陽の横にある小さな白雲も画面に変化をつけています。</p>			
審査員 前日本カメラ編集長／日本大学芸術学部写真学科講師 ／日本写真協会常務理事／日本写真芸術学会評議員 梶原高男			

さがみはら写真賞
渡邊博史
「私は毎日、天使を見ている。」



さがみはら写真アジア賞
スティーヴン・リー
「アウトサイド・ルッキング・イン・
クアラルンプール」



さがみはら写真新人奨励賞
青木弘
「BORN UNDER FIRE—戦火の子どもたち」



さがみはら写真新人奨励賞
中田聡一郎
「星のしゃぼん —砂守が育んだ故郷」



さがみはらアマチュア写真グランプリ

金賞：浅野照子「散歩コース」

